

2009年台風第18号(台風メーロー)通過後に 長野県内で初記録されたシロアジサシ *Gygis alba*

堀田昌伸¹・林 正敏²・笠原里恵³

2009年台風第18号(台風メーロー)通過後の、2009年10月8日から11日にかけて、長野県内でシロアジサシ4個体が回収された。これは長野県におけるシロアジサシの初めての記録である。回収された4個体すべての体重がかなり低かったことから、台風巻き込まれ、十分に餌をとることができず、衰弱死したものと推測された。

キーワード：シロアジサシ, *Gygis alba*, 2009年台風第18号(台風メーロー), 長野県

亜熱帯や熱帯などの島嶼で繁殖し、その近海に生息するアジサシ類が、本州、特に内陸県である長野県で確認されることは稀であり、これまでセグロアジサシ *Sterna fuscata* の1例があるだけである¹⁾。羽田(1971)は、マミジロアジサシ *S. hirundo*、クロアジサシ *Anous stolidus*、そして、シロアジサシ *Gygis alba* の3種について、諏訪湖に稀に出現すると報告しているが、具体的な観察日時や観察場所の記載はない²⁾。2009年10月、長野県内でシロアジサシ4個体が回収された。これは長野県での初めての記録となるのでここに報告する。

シロアジサシは、インド洋、太平洋、そして、大西洋の熱帯や亜熱帯の島嶼に生息する^{3), 4)}。日本では、1922年に南鳥島で繁殖した記録があるほかは、迷鳥として、北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島、小笠原諸島、硫黄列島、沖縄島、南鳥島で記録がある^{5), 6)}。

9月29日に南太平洋上(9.6°N, 160.4°E)で発生した、非常に大型の2009年台風第18号(台風



図1 シロアジサシが回収された場所(○印)と台風第18号(メーロー)の経路(矢印の実線)
○に付した番号は、表1と表2の番号に対応する。台風の経路は、気象庁のデータ⁷⁾をもとに作図。

表1 シロアジサシ4個体の回収状況(2009年)

NO	回収日時	回収場所	緯度 経度	回収状況
1	10月8日午後	木曾郡大桑村野尻 大桑小学校近く	35° 40' 21" N 137° 38' 19" E	民家で衰弱個体を保護、18時頃死亡
2	10月9日朝	南佐久郡南相木村和田	36° 02' 23" N 138° 32' 32" E	耕地で死亡個体を発見
3	10月10日午前6時頃	木曾郡南木曾町吾妻寺 広照寺	35° 33' 33" N 137° 39' 07" E	境内の階段で死亡個体を発見
4	10月11日午前11時半頃	諏訪市豊田 諏訪湖広域下水処理場	36° 01' 56" N 138° 05' 22" E	処理場展望台で死亡個体を発見

1 長野県環境保全研究所 自然環境部 〒381-0075 長野市北郷 2054-120

2 日本野鳥の会諏訪 〒394-0045 長野県岡谷市川岸東 2-9-8

3 東京大学大学院農学生命科学研究科 附属緑地植物実験所 〒262-0018 千葉県千葉市花見川区畑町 1051

メーロー；最低気圧：910hPa；暴風域の最大半径：220km)は、10月8日の朝に長野県南部を通過した(図1)⁷⁾。

その直後の10月8日から11日にかけて、台風の進路の左側にあたる、木曾郡大桑村野尻(10月8日)、南佐久郡南相木村和田(10月9日)、木曾郡南木曾町吾妻寺(10月10日)、そして、諏訪市豊田(10月11日)の4ヶ所で、シロアジサシと思われる個体が回収された(表1)。

シロアジサシは、1)全身が白く目の周囲に小さな黒斑があること、2)嘴は黒色で、わずかに上に反っていること、3)尾羽は短く浅い燕尾であること、4)足は青白色であること、などの特徴を有する⁶⁾。また、シロアジサシの幼鳥は上面に褐色斑がある⁶⁾。回収された4個体はいずれも、上記に述べたシロアジサシの特徴を有していること、上面に褐色斑がないことから、シロアジサシの成鳥と同定された(写真1)。

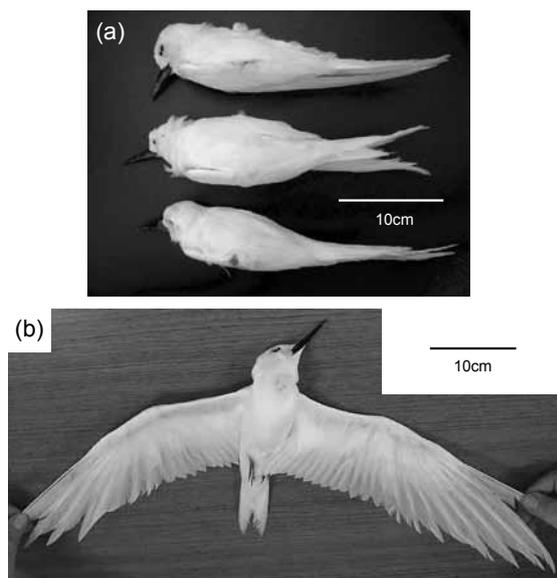


写真1 回収されたシロアジサシ
回収場所は、(a)上から、木曾郡大桑村、南佐久郡南相木村、木曾郡南木曾町、(b)諏訪市豊田。

最初の個体は、10月8日午後、大桑小学校近くの民家で保護されたが、その日の夕方6時頃に死亡した。後日、長野県環境保全研究所で検査した結果、嘴の先端と下嘴の中程が折れていたことから、窓ガラス等に衝突し、衰弱しているところを保護されたのではないかと推測された。それ以外の3個体は発見されたときにすでに死亡しており、目立った外傷は認められなかった。4個体を計測した結果(表2)、体重を除く測定値(自然翼長：平均 = 228 mm, 最大翼長：240 mm, 尾長：97 mm, 露出嘴峰長：36.3 mm, 全嘴峰長：42.8 mm, 跗しよ長：13.6 mm, 全長：27.3 cm, 翼開長：65 cm)の大半は、既存文献^{4),8)}で報告のある、範囲(翼長：221 - 247 mm, 尾長：97 - 121 mm, 嘴峰長：33 - 43 mm, 跗しよ長：11 - 19 mm, 全長：25 - 30 cm)内であった。しかし、体重(平均 = 67.4 g)はこれまで報告のある範囲(92 - 139 g)を大きく下回っていた。また、解剖した1個体では筋胃内になにもなかった(表2, NO4)。シロアジサシは海上を飛びながら、海面や海中にいる小魚やイカ、エビなどを探し、海面に飛び込むことでそれらを採る⁴⁾。そのため、台風により荒れている海面では、エサを十分に採ることができなと考えられる。体重が極端に低かったことや胃の中になにもなかったことは、回収された4個体は食べものがとれずに衰弱し、死亡した可能性が高いことを示している。

台風などの影響により、熱帯や亜熱帯に生息する海鳥類、あるいは、島嶼に生息する外洋性海鳥類が、日本の沿岸や内陸で確認・保護されることはこれまでも数多く報告されている⁹⁾。最近では、2006年9月に通過した台風の後、クビワオオシロハラミズナギドリ *Pterodroma externa cervicalis* とシロハラミズナギドリ *P. hypoleuca* が県内で保護されている¹⁰⁾。今回の事例もその一つであると考えられる。

表2 回収されたシロアジサシの測定値

NO	全長 (cm)	翼開長 (cm)	自然翼長 (mm)	最大翼長 (mm)	尾長 (mm)	露出嘴峰長 (mm)	全嘴峰長 (mm)	ふしよ長 (mm)	体重 (g)	備考
1	27.2	65	232	243	99	37.5	44.0	12.6	68.0	嘴先端と下嘴中程がおれている。
2	26.2	66	235	242	91	38.3	44.2	12.4	67.8	
3	27.6	64	228	238	105	33.5	41.9	13.4	65.8	右側の鼻腔が大きくなっている
4	28.3	66	217	237	92	36.0	41.0	16.0	68.0	解剖の結果、筋胃内には何もなく、小腸から大腸に至る腸内に黒色の消化物あり。

謝 辞

今回のシロアジサシの保護・回収にあたっては、大桑小学校教諭の近藤友香里氏，日本野鳥の会諏訪支部会員の持丸順彰氏，持丸順子氏，長野県庁林務部野生鳥獣対策室の佐藤繁氏，長野県木曾地方事務所林務課林務係の下澤幸典氏，長野県佐久地方事務所林務課林務係の中川よう子氏，そして，長野県木曾郡南木曾町役場経済観光課農林係の高橋宏光氏をはじめとする方々に大変お世話になりました。ここにお礼を申し上げます。

文 献

- 1) 日本野鳥の会長野支部（編）（1999）長野県鳥類目録3－繁殖鳥類分布図－。日本野鳥の会長野支部，長野。
- 2) 羽田健三（1971）原色信濃野生鳥獣図鑑。長野県林務部林政課，長野。
- 3) Brazil, M (2009) Birds of East Asia. Christopher Helm, London.
- 4) del Hoyo, J, Elliott, A & Sargatal, J (eds) (1996) Handbook of the Birds of the World. Vol.3: Hoatzin to Auks. Lynx Edicions, Barcelona.
- 5) 日本鳥類目録編集委員会（編）（2000）日本鳥類目録改訂第6版。日本鳥学会，帯広。
- 6) 吉井正（監）・三省堂編修所（編）（2005）世界鳥名事典。三省堂，東京。
- 7) 気象庁 台風経路図 2009年：
http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/typhoon/route_map/bstv2009.html (2010年1月23日確認)。
- 8) 清棲幸保（1978）増補改訂版 日本鳥類大図鑑II。講談社，東京。
- 9) 中村一恵（2002）海鳥はなぜ落ちるのか。BIRDER 16: 27-29.
- 10) 堀田昌伸・飯島久・杉山要・平岡考（2008）長野県内で保護されたオオシロハラミズナギドリ *Pterodroma externa cervicalis* とシロハラミズナギドリ *P. hypoleuca*。長野県環境保全研究所研究報告 4: 83-85.

White Terns (*Gygis alba*) first recorded in Nagano Prefecture, central Japan, after a typhoon (Melor, No. 200918) passed

Masanobu HOTTA¹, Masatoshi HAYASHI² and Satoe KASAHARA³

- 1 Nagano Environmental Conservation Research Institute, Natural Environment Division, 2054-120 Kitago, Nagano 381-0075, Japan
- 2 Suwa Chapter, Wild Bird Society of Japan, 2-9-8 Kawagishihigashi, Okaya 394-0045, Japan
- 3 Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo. Experimental Station for Landscape Plants, 1051 Hata-machi, Hanamigawa-ku, Chiba City 262-0018, Japan

Key words : White Tern, *Gygis alba*, Typhoon Melor (No. 200918), Nagano Prefecture